

5月1日(火)～29日(火) 満月セレクト

— 今回のセクター ご紹介 —

Music Selector : 大島 佑介



大島 佑介

1985年栃木県生まれ。父親の影響でキース・ジャレット、ビートルズが好きになる。映画『トレインズポットィング』でアンダーワールドのボーン・スリッピーを聞いてからは、高校、地元のクラブでボランティア・スタッフをしながらDJを少しばかりスタート。2006年、ヘアサロン「twiggy.」に入社。カラーリストとしてサロンワークに奮闘中。入社後9年間、日々のコンディションを考えながら、新旧様々なジャンルの音楽をとり混ぜ、サロン内の選曲を続けている。

今回のセレクトCD

1.



Rhye / Blood (Loma Vista / LVR00317)

前回は紹介したマイケル・ミロシュ率いる、ロサンゼルス・ソウル・ユニット、Rhyeによる4年振りとなるセカンド・アルバム「Blood」。相棒のハンニバルが離脱しマイケル一人となったRhyeだが、相変わらずの官能的なハスキー・ヴォイスと神秘的なサウンドは健在。去年のフジロック・フェスティバルでヘッドライナーを務め、観客を魅了して以来となる東京ゼップ・ダイバーシティでの単独公演も楽しみだ。

2.



Khruangbin / Con Todo El Mundo (Night Time Stories / DOC153)

60～70年代のタイ音楽や東南アジアのポップ・ミュージックに影響を受け、メロウでありながらサイケデリックでもある、ソウル、ファンク・サウンド。AOR、ソフト・ロックからハワイアンまで飲み込んだ、エキゾチックな桃源郷ワールドだ。アメリカのテキサスを拠点に活動する、ドラム、ギター、ベースのトリオのクルアンビン。ヴィンテージ感満載でありながら、どこか新しさも感じさせる。

3.



Everything Is Recorded / Everything Is Recorded by Richard Russell (Beat / XL883CDJP)

あの超名門インディー・レーベル「XL Recordings」の総帥、リチャード・ラッセルによる話題のコラボ・プロジェクト。サンファ、イペイ、カマシ・ワシントン、ジ・インターネットのシド、デーモン・アルバーンやマーク・ロンソン等がコラボし、一部のプロダクションにはブライアン・イーノまでもが参加している。今、最も豪華なアーティストにより作られたアルバムであり、おもにサンプリングを駆使しているながらも、新しい未来を提示しているように感じられる1枚。アルバムを通して、創作に没頭する空気感と一体感が伝わる。

4.



Various Artists (選曲・監修: 中村智昭) / Bar Music 2017 Portal to Imagine (Musicaanossa Gryps / MNGP14)

DJ、選曲家、音楽ライターとして「ムジカノッサ」を主宰し、また、USENの「usen for Cafe Apres-midi」や、FM各局にも選曲を提供をしている渋谷のバー、「Bar Music」の店主である中村智昭。冒頭から大注目、北インドのアーティスト、ジャウビによる、J・ディラの曲「Fall In Love」にインスパイアされたという「Dilla Taal (For J Dilla)」から、エンドロールまで、全編に渡って洗練されたコンピレーション・アルバム。行くたびに満足させてくれる「Bar Music」店内の選曲同様の内容だ。

5.



FKJ / French Kiwi Juice (Roche Musique / RM039)

フランス出身のマルチ・プレイヤーであるフレンチ・キウィー・ジュース。ヒップホップ的なサンプリングと、ビートのセンスはまさに今を感じさせるが、そこへ伝統的なソウル、R&Bを融合させ、メロウであり何処となくセクシーなムードを醸し出す。不思議な室内感と開放感を感じさせる。また、ジャマイカ出身のジャズ・サクソフ・プレイヤーであり、ジャズをベースにして様々なジャンルを織り交ぜるスタイルのトラップ・ハウス・ジャズの提唱者、マセーゴとの共作「Tadow」も記憶に新しい。FKJとマセーゴ、共に今後注目のプレイヤーだ。